

平成 20 年度 第 1 回定例会と第 2 回講演会の開催

1. はじめに

北方海域技術研究会では、平成 20 年 10 月 9 日～10 月 10 日に第 1 回定例会(現地視察会)、平成 20 年 11 月 21 日に第 2 回講演会を行いました。第 1 回定例会は 9 名、第 2 回講演会は 77 名の方々に参加いただきました。

第 1 回定例会での視察内容と第 2 回講演会の講演内容について報告いたします。

2. 第 1 回定例会

1) 視察場所と視察日程

第 1 回定例会では、東京国際空港 D 滑走路建設工事現場、同滑走路のジャケットヤード・床版製造所及び財団法人海洋生物環境研究所を視察しました。視察日程及び概要を表-1 に示します。

表-1 視察概要

日 程	視察概要
10月9日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・羽田空港D滑走路工事現場 ・ジャケットヤード(新日鉄エンジニアリング富津工場ヤード) ・床版製作所(大成建設株式会社 UFC 床版製作所)
10月10日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・財団法人海洋生物環境研究所中央研究所

2) 羽田空港 D 滑走路建設工事現場

羽田空港 D 滑走路は、空港の発着容量(29.6 万回/年)が処理能力限界に達している現状から早期に制約を緩和(40.7 万回/年)させる目的で、現空港の南側に建設しています。工事の概要は以下のとおりです。

- ①滑走路 2,500 m、
- ②埋立・栈橋工法のハイブリット構造、
- ③多摩川の通水性を確保する栈橋構造、
- ④東京港第一航路の付け替え、
- ⑤ 24 時間、365 日の施工

視察では、監督船に乗船させていただき、大型工事を、間近に見学させていただきました。写真-1



写真-1 D滑走路建設工事現場

に工事の状況を示します。

3) 栈橋部ジャケットヤード・床版製造所

D 滑走路の栈橋部は、東京湾内外の製作工場にてジャケットを製作し、建設地点まで輸送しています。工事現場の視察の後、千葉県富津市にあるジャケットヤードを視察しました。ジャケットヤードには、各地の製作工場にて製作された上部ジャケットがストックされています。ジャケットヤードでは、それを下部ジャケットと一体化した上で、建設現場に出荷しています。写真-2 にジャケットヤードの状況を示します。



写真-2 富津ジャケットヤード

ジャケットの上に架設される床版は、PCa床版とUFC床版が併用されています。このうち、耐久性の高いUFC床版の製作所を視察しました。写真-3にUFC床版製作所の状況を示します。



写真-3 床版製作所

4) 財団法人海洋生物環境研究所中央研究所(御宿)

海洋生物環境研究所は、発電所の取放水が海域環境や生物に与える影響を科学的に解明する調査研究機関として、昭和50年に設立されました。研究所の概要、研究成果、現在の取り組みなど映像を交えて説明いただいた後、研究所内の施設を視察しました。写真-4に海洋生物環境研究所の視察状況を示します。



写真-4 海洋生物環境研究所

3. 第2回講演会

第2回講演会は、独立行政法人土木研究所寒地土木研究所との共催で、平成20年11月21日に寒地土木研究所1階講堂にて行いました。

講演会では、上久保氏、福田氏より寒地土木研究所寒地水圏研究グループにおける最新の研究成果を2編講演していただきました。また、佐藤氏より防波堤の信頼性設計法についての基本的な考え方を講演していただきました。さらに、特別講演として北川氏より北極海航路について航路啓開の歩み、現状での評価と今後の展望、欧米での動向などについて貴重な講演をしていただきました。講演内容及び講演者を表-2、講演会の状況を写真-5に示します。

表-2 講演会の概要

講演内容	講演者
①講演1「臨海道路における高波による被災特性とその解決に向けての取り組みについて」	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所寒地水圏研究グループ寒冷沿岸域チーム 研究員 上久保勝美 氏
②講演2「人工動揺基質を用いたウニによる磯焼け海域での藻場造成について」	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所寒地水圏研究グループ水産土木チーム 総括主任研究員 福田光男 氏
③講演3「防波堤の信頼性設計法の考え方について」	北日本港湾コンサルタント(株) 企画解析室室長 佐藤典之 氏
④特別講演「来るべき北極海航路時代に備えて」	海洋政策研究財団(元北海道大学教授)北川弘光 氏



写真-5 第2回講演会

4. おわりに

第1回定例会では、お忙しい中、丁寧な説明を行っていただいた関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

第2回講演会では、今後の技術研鑽に欠かせない貴重な講演をしていただいた4名の講演者の皆様に感謝申し上げます。

(文責：北方海域技術研究会幹事 土井 善和)